

## 平成30年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）実績報告書

（平成31年3月）

報告者氏名・所属	菊野雅之・釧路校
研究プロジェクトの名称	大学生に求められる記述力・自己教育力の伸長を目指した講義形態に関する研究—学生の協働学習形態の構築・学生および大学院生メンターの養成—
プロジェクト担当者 (氏名・所属・職) ※代表者に●を付すこと	●菊野 雅之 ・ 釧路校・准教授 渥美 伸彦 ・ 旭川校・准教授 幸坂 健太郎・札幌校・講師
研究プロジェクトの概要等（研究期間全体）	
<p>学生の記述力および自己教育力の伸長を旨とする講義形態の模索を様々な講義モデルの構築と実践を通じて模索していく。モデル構築の観点は3つである。①「主体的・対話的で深い学び（いわゆるアクティブ・ラーニング）」の講義モデルを「小学校国語科教育法」の中で実践し、その成果を検討する。②同講義の中にメンター（先達者）として同講義既修者である大学院生をグループワークに関わらせることで、学習効率を引き上げ、また、メンター自身の学びを深めることができる講義モデルを模索する。③全国大学生協主催の「読書マラソン・コメント大賞」への投稿を指導機会として捉え、学生間の協働・教師との対話を通じて、学生の記述力及び自己教育力を促す学習モデルのアップデートを行う。</p>	
研究実績の概要（当該年度）	
<p><b>1. 大学院の講義と本講義との連動による学生およびメンターの学びの深まり</b></p> <p>大学院生メンターを講義に参加させ、講義効率の向上を図った。また、メンターからグループワークの様子について聞き取りを行い、講義内容の課題を適宜把握することができた。講義改善の方策としてもメンターを講義に参加させることで、メンターの観点から講義に有用な情報を得ることが可能である。次年度に向けたメンター用の手引き作成、メンターとの協議を通じて講義内容の改善を行った。加えて、本年度からは大学院の講義と本講義とを連動させることで、大学院メンターの学びがさらに深まり、サブテキストの作成といった具体的な成果につながっている。</p>	
<p><b>4. 「大学生協主催読書マラソン・コメント大賞」への投稿を通じた論述トレーニング</b></p> <p>本学図書館の企画「書評コンテスト」が中止になったことを受け、急遽、「大学生協主催読書マラソン・コメント大賞」への投稿に「国語表現」の講義内容を変更した。コメントの際の留意点を学生相互で評価し合う授業モデルを構想することができた。</p>	
今後の研究プロジェクトの推進計画	

教育現場や地域での活用等	
<p>本プロジェクトは、アクティブ・ラーニング型講義モデルの構築と試行を通じて、新たな学びの方法論へのニーズに対応しようとしている。</p> <p>大学院生メンターの存在は、講義受講の学生にとっては好評で、その助言も役に立ったという。大学講義における大学院生・単位取得済の大学生が介入した縦割り指導（メンターシステム＋アクティブ・ラーニング）の可能性とその方法論を示すことができた。なお、本講義詳細についてはシラバスを通じて公表している。また、いかに良質な問題を作成するかということのノウハウやプロセスについても論文を通じて成果報告に至っている。本成果をふまえた講習（免許更新講習）も展開しており、教員へのフィードバックも進みつつある。</p> <p>「読書マラソン・コメント大賞」への投稿の際の重要な点として「選書」が挙げられる。こういった講義で「読書」を取り上げる際には、学生な自由な読書というよりも学生の選書対象を押し広げるという視点も重要である。</p>	
研究成果の公表実績（当該年度）	
【著書】	
<p>【学術論文】（投稿中も含む）</p> <p>菊野雅之「B問題を作成することを通じて学習指導要領を読み解く力を身に付ける―「小学校国語科教育法」実践報告（その2）―」『語学文学』57号、2018.12</p>	
【学会発表、シンポジウム、セミナー、演奏会、展覧会、競技会、普及啓発イベント等】	
【テキスト、報告書、研修資料等】	
添付資料	
ダウンロード可能なドキュメント	
関連URL	
問い合わせ先	氏 名：菊野雅之 電 話：(0154)44-3306 E-mail：kikuno.masayuki@k.hokkyodai.ac.jp